

「～に対して」と「～にとって」の指導上の留意点 — 中国人学習者の誤用例をめぐって —

沢 田 奈保子

1. はじめに

外国人対象の日本語教育の中級段階で習得させねばならないものの中には、いわゆる格助詞相当連語^(注1)と呼ばれるものが多数ある。その中の「～に対して」と「～にとって」は、中国人学習者の間で、特に誤用の顕著な傾向が見られる。

(1) *あなたに対してはやさしいかもしれませんが、私に対してはむずかしいです。

(2) *日本人は外国人にとって親切だ。

(3) *自動車は日本に対して大切な輸出品だ。

(1)の二つの「～に対して」は、いずれも「～にとって」に、(2)の「～にとって」は「～に対して」に、(3)の「～に対して」は「～にとって」にしなければ文として成立しない。

明らかにこれらの誤用は、「～に対して」と「～にとって」の用法上の区別ができないところに起因している。また、実際誤用を直された中国人学習者は、中国語においては何ら使い分けの必要のないものであり、これらが日本語において使い分けられている規準もわからないと訴えるのである。

確かに、日本語が中国語に訳出された場合及び中国語が日本語に訳出された場合を見てみると、どちらも同じ介詞^(注2)「对」の部分に、日本語の「～に対して」と「～にとって」の二種が対応している。

(4) 彼は誰に対しても丁寧だ／他对谁都很有礼貌。(『岩波 日中辞典』より引用)

- (5) 農民対下放幹部非常熱心／農民は下放幹部に対してとても親身である。
 (光生館『現代中国語辞典』より引用)
- (6) これは彼女にとって大切なものだ／這対她來說是很重要的。(小学館『日中辞典』より引用)
- (7) 対他都是很不利的事／彼にとってとても不利なことばかりだ。(『岩波中国語辞典』より引用)
- (8) 対誰都没好处／誰にとっても利益がない。(『岩波 中国語辞典』より引用)

この小論では、日中対照研究には至らないが、誤用の発見を一つの契機として、学習の効率をはかるために、この両語の使い分けについて考察を試みることにする。

2. 両語の混同されやすい環境

「～に対して」と「～にとって」は、いかなる環境、すなわちそれが現れるどんなタイプの文型においても中国人学習者の混乱を招いているというわけではない。例えば次のような場合、中国系に限らず、学習者は何の混同も起こさない。

- (9) 社員タチハ会社ニ対シテ抗議シタ。
- (10) 我々ハ隣国ノ援助ニ対シテ感謝シテイル。
- (11) 先生ハ学生ノ質問ニ対シテ答エル。

上記の(9)～(11)は文型的に見ると、「Xハ Nニ対シテ V」であり、「～に対して」は述部が動詞であるという環境に現れている。本来、この環境では「～に

とって」のほうは現れず、^(注3) 従って指導上学習者の混乱を招くような問題は存在しない。

指導上問題があると見られるのは、先の誤用例として挙げた(1)～(3)のようなタイプの文である。文型的に見ると、これらは「(Xハ) N = _____ A / NA^(注4)」と規定できる。すなわち、述部が形容詞か形容動詞であるという環境に、「～に対して」や「～にとって」が現れる場合である。

3. 述部に立つ形容詞や形容動詞の意味特徴

文型的な環境が共通していながら、「～に対して」と「～にとって」が厳密に使い分けられているという事実は、述部に立つ形容詞や形容動詞の意味的な性格に両語の選択要因があるということを物語っている。

もともと、「～にとって」は述部が動詞の場合には用いられないのであるから、「～にとって」と共起して述部に立つ語は、動的な意味を本来持っていないか、あるいは具体的な動作・行為と関連を持たないものではないかと考えられる。このことは、例えば静的述語の典型である「名詞+だ」が後接され得ることからも裏付けられる。

(12) 彼ハ私ニトッテ恩人ダ。

(13) ソレハ学校ニトッテ大問題ダ。

(14) これはやはり、男にとっては一大事であって、～（女）

(15) それは彼女に取っては不貞でもなく破倫でもない。（蒼）

(16) 恋愛は、ドイツ人にとって哲学であり、フランス人にとっては芸術であり、イギリス人にとってはビジネスで、～（日）

これに対して、「～に対して」のほうは、用例(9)～(11)のように、動詞すなわち

動的な述語と共起する。このことから、述部に立つ語はたとえ形容詞や形容動詞ではあっても、動的な意味を内包しているもの、つまり具体的な動作・行為と関連するものに限られるのではないかと推察されるのである。

- (17) 彼 ハ 先生 ニ 対シテ 失礼 デアル。(→失礼な言動をとる)
(X) (N)

- (18) 彼女 ハ 外国人 ニ 対シテ 親切 ダ。(→親切な行為をする)
(X) (N)

- (19) アノ先生 ハ 学生 ニ 対シテ 厳シイ。(→厳しい態度で接する)
(X) (N)

- (20) 彼 ハ 委員会 ニ 対シテ 批判的 ダ。(→批判的な発言をする)
(X) (N)

- (21) ドイツ ハ 日本 ニ 対シテ 友好的 ダ。(→友好的な態度をとる)
(X) (N)

- (22) Bの場合は、自分の直属の上役に対して失礼なようで、～(敬)

- (23) 「(室長は) いらっしゃいます」では部長に対して失礼だという配慮で～(敬)

- (24) 相手に対して親切になる応対と、気のきかない、つまり相手に対して不親切になる応対とがあるということを～(敬)

- (25) 自分に対してだけ優しければ非常に満足するという～(女)

(㉞) 男が、世の中の事象に対してあまねく優しくては気に入らないのである。

(女)

「失礼だ」、「親切だ」、「厳しい」、「優しい」、「批判的だ」、「友好的だ」などは、いずれもXの言動あるいは働きかけ（対象に向かっていく発言、行為、態度など）についての評価で、客観的に観察される具体的な言動や働きかけが表面に現れてはじめて「Xハ」に与えられるものである。

一方、「～にとって」と共起して述部に立つ形容詞や形容動詞は、具体的に現れる言動や働きかけについての評価を表すものではない。

(㉟) 漢字ヲ覚エルコトハ 中国人ニトッテハ 易シイガ、欧米人ニトッテハ 難シイ。
(X) (N) (N)

(㊱) 家族ハ 私ニトッテ 一番大切ダ。
(X) (N)

(㊲) 空気ハ ドンナ生き物ニトッテモ 必要デアル。
(X) (N)

(㊳) アメリカ人にとっては、西洋の他の言葉にくらべて日本語はずっとむつかしい。(日)

(㊴) 日本人にとっても、英語は、たとえば性質が日本語に似ている朝鮮語などより、むつかしい。(日)

(㊵) 人間にとってもっとも大切なものは脳だ。(宇)

(㊶) 現代のほうが多くの人にとって幸福であることは間違いない。(宇)

XはNに何らかの言動を及ぼしたり、働きかけをしたりする「動的な存在」ではなく、述部に現れる形容詞や形容動詞はXについてのNの価値観（ある物・物事にどういう価値や意義を認めるかということについての、それぞれの人の主観的な考え方）を表していると観察される。

Nが話者であれば、その価値観を直接に表明し、Nが話者以外であれば、話者がNのXについての価値観を代弁していることになる。

4. 指導上の留意点

以上の考察から、学習者の混乱を避けるために、文型の設定や提出には、特別の配慮が必要になってくることがわかる。

ポイントは、「Xハ Nニ対シテ A／NA」と「Xハ Nニトッテ A／NA」が、実はそれぞれ異なる統合的関係を内包しているということに留意させることである。以下にそれを示し、小論のまとめとしたい。

「Xハ Nニ対シテ A／NA」

X — 何らかの働きかけをする主体となりうるもの。

N — Xからの具体的な言動や働きかけの及ぶ対象。

A／NA — 言動や働きかけを客観的に評価する語。^(注5)

「Xハ Nニトッテ A／NA」

X — 非動作主（静的な存在 — Nに具体的な働きかけをしない）。

N — 主観的な価値判断の担い手。

A／NA — 必要性、重要度、存在価値、有用性、難易など、主観的な価値観を表す語。

注1. 文化庁『外国人に対する日本語教育の振興に関する報告集』の文法標準表に使用されている名称に従った。

注2. 呂叔湘主編『現代漢語八百詞』による。

注3. 例えば「～にとって役に立つ」などは、動的な意味を持たないものとして、

むしろ形容詞や形容動詞と同類と見る。

注4. 本論では便宜的に形容詞をA、形容動詞をNAと表すことにする。

注5. 言動や働きかけを客観的に評価する語であると明確に規定できるもの以外にも、「～に対して」をとる形容詞類があることは事実である。「はずかしい」、「申し訳ない」、「すまない」、「悪い」などの対人的感情を表す語がそれに当たるが、これらは「Xハ Nニ対シテ A/NA」の文型に必ずしも当てはまらず、感情形容詞特有の問題を含んでいると思われるので、本論では対象外とした。文型に当てはまらないものとしては、次のような例が典型的である。

(a) *私ハ彼ニ対シテ悪イ。

(b) 私ハ彼ニ対シテ悪イコトヲシタ。

(c) 私ハ彼ニ対シテ悪イト思ッテイル。

上の(a)は非文であるが、(b)、(c)のように動詞述語を後接させると成立する。この場合、「ニ対シテ」は「シタ」、「思ッテイル」にかかっていると見られる。

<出典一覧>

女＝中山あい子『女が殺意をいだくとき』（光文社文庫）

蒼＝石川達三『蒼氓』（新潮文庫）

日＝我妻 洋『日本人とアメリカ人ここが大違い』（NESCO BOOKS）

敬＝大石初太郎『敬語』（筑摩書房）

宇＝松田卓也『これからの宇宙論』（講談社ブルーバックス）

<参考資料・文献>

日本語と中国語対照研究会編『日本語と中国語の同形語(1)』（1986）

文化庁文化部国語課『外国人に対する日本語教育の振興に関する報告集』
（1983）

倉石武四郎／折敷瀬興編『岩波 日中辞典』（1983）

北京・对外経済貿易大学／北京・商務印書館／小学館 共同編集『日中辞典』
（1987）

香坂順一編著 光生館『現代中国語辞典』（1986）

倉石武四郎著『岩波 中国語辞典』（1983）

呂叔湘主編 商務印書館『現代漢語八百詞』（1980）

野村剛史（1984）「～にとって／～において／～によって」『日本語学』第3
巻第10号 明治書院

小矢野哲夫（1985）「形容詞のとり格」『日本語学』第4巻第3号 明治書院

益岡隆志（1987）「モダリティの構造と意味 — 価値判断のモダリティをめぐ
って —」『日本語学』第6巻第7号 明治書院

益岡隆志・田窪行則（1987）『日本語文法 セルフマスターシリーズ3 格助
詞』くろしお出版